

すずかけ

すみだ女性センター

「すみだ女性センター」は
特集 「すみだ共生社会推進センター」に名称を変更します

2 巻頭インタビュー

4 **特集**

「すみだ女性センター」は
「すみだ共生社会推進センター」に
名称を変更します

8 になりたい自分、になりたい未来
すみだの
「お仕事探訪」

9 今日の一字

10 すずかけ
インフォメーション

12 こんにちは
すみださん



巻頭インタビュー
お笑い芸人
みやぞんさん

こんにちは すみださん

墨田区男女共同参画推進委員
小池 尋江さん

表紙イラストは、
すみだ女性センターの
愛称である
「すずかけ」の実です。



お笑い芸人

みやぞんさん

Miyazon

Profile

1985(昭和60)年生まれ。東京都足立区出身。幼なじみのあらぼんさんとお笑いコンビ「ANZEN漫才」を結成。『世界の果てまでイッテQ!』(日本テレビ系)で一躍人気者に。2020(令和2)年与那国町初の観光大使に就任。歌ネタではギターの弾き語りを担当。

墨田区のお隣、足立区のご出身と聞きました。

足立区の6畳ほどの部屋で、母と姉4人の6人家族で住んでいました。階段の手すりが錆びて取れちゃうことがあるくらい古い団地でした。家のベランダから、スカイツリーがどんどんできあがるのを見ていましたよ。

小さい頃から、僕は一言

で言うとお調子者でした。

よくポジティブだと言われるます。でもね、僕も生きづらかったり、ポジティブになれない要素がたくさんありました。物心ついた時からお父さんはいないし貧乏だったし…。だけどポジティブが一番!という信念があったから、どんなことも笑顔で前向きに考えるようになりました。それはきつと、最強ポジティブな

母ちゃんと姉ちゃんたちがいたからかな。貧乏だったけど、明るくてあったかくて、どこの家族よりこの家が幸せだって思っていましたよ。もちろん僕だって、ネガティブになつてしまいう時もありますけど、気持ちのハンドルがマイナス方向にぐぐつと行きかけた時は、無理やりにでもプラスの方向へ切り替えるように、意識しています。



お笑い芸人になる前のことを教えてください。

僕ね、お調子者だったから、小さい頃から好きな子や友達に、かっこいいと言われるよりも面白いつつ笑ってもらえるのが嬉しかったんです。高校卒業後からお笑い芸人を目指し、お笑いをやりながらいろいろなところで働きました。どこでも元気に楽しく！電気屋さんや図書館、地域のミュージ

カル出演、障がい者福祉施設で職業指導員として働いたこともありました。

職業指導員は、障がいのある方が一般就労できるようサポートするお仕事です。その中で障がいのある方が育てた花の苗を、スーパーの一角で売ることがありました。その売上がみんなに還元されるので、一生懸命売りました。やっぱりそこでも面白く楽しく売るのが僕。初めての人にも笑顔で「久しぶり！」と声をかけて、笑ってもらって買ってもらった。笑顔と声かけひとつで、買った人も育てた人も売る僕も、みんないい気分になれますから。みんながハッピーになれるから、みんなを笑顔にさせたい、自分も笑顔でいたい。そんな思いが今の仕事でも生きていていると思います。

ポジティブ最強、笑顔が一番！

ハッピーを考えるコツは？

何事も気楽に考えて、笑顔でいることが一番。生きていくだけで幸せですから。海外に行くと、ご飯が食べられるだけで幸せだと言いながら楽しく暮らす人がたくさんいます。逆に豊かだからこそ、日本で幸せを感じるのが難しいのかもしれないあななんて思うんです。でもその幸せに気づけないのはもったいない！もつと気楽に、幸せだなんて思えば、毎日ハッピーに生きられます。試みにタンスの角に小指ぶつけてみて。ぶつける前がどれ

だけ幸せか気づくでしょ。それと一緒に。気楽に、あとは自分の心のおもむくままです。僕とギターの出会いが中学生の時。まったく弾いたこともなかったけど、すごくワクワクしました。やりたいからやる、それが正解。自分のワクワクドキドキに素直に従えば、きつとうまくいきます。

僕んちは母ちゃんも姉ちゃんたちもとにかく明るくてパワフルでしたから、世間でいうところの「女らしい」とか「男らしい」とかがよくわからないんです。だって、そういう(ステレオタイプな)考え方で、実際には当てはまってないで

すよね。僕の中では、むしろ逆なんじゃないかなって思うことが多いくらいで。だから、それぞれが持っている個性や得意を伸ばしていくほうがずっとよいと思います。僕には僕にしかできないことがあるように、みなさんにしかできないことがあるはず。それを楽しんで挑戦してみたらよいんだと思います。そうすると無理だと思っていたことが、意外と「あれ、できちゃった」なんてことも。でもね、「頑張ってもダメな時はありますから、そんな時はやめちゃうのもありです。深刻に考えすぎず、笑顔で「ダメでしたね〜」でよいんだと思います。

この取材は2023(令和5)年9月12日に行いました。



「すみだ女性センター」は 「すみだ共生社会推進センター」に名称を変更します

2005(平成17)年に制定された「墨田区女性と男性の共同参画基本条例」を改正し、2023(令和5)年4月から施行された「墨田区女性と男性及び多様な性の共同参画基本条例」を受け、新しい名称が決定されました。

地球環境の変化、国際化の波、少子・高齢化社会の到来など、社会の状況は様々に変化しています。その中で広く社会に目を向け、一人ひとりの個性を尊重し共に生き、引き続き地元の地域活動の場となるよう編集委員として様々な情報を発信していきたいと思えます。

今号は今まで女性センターに関わってこられた方をお迎えし、これまでのすみだ女性センターを振り返りながら、これからの「すみだ共生社会推進センター」があゆむ道等をお話して頂きました。

今後も「すみだ共生社会推進センター」をよろしくお願いいたします。

すみだ女性センター開館前後の歴史を年表にまとめてみました

世界

日本

すみだ女性センター

1975(昭和50)
国際婦人年
第1回世界女性会議(国際婦人年世界会議)
メキシコシティで開催

1979(昭和54)
女子差別撤廃条約採択

1994(平成6)
パープルリボンプロジェクトにつながる運動がアメリカで発祥した



2015(平成27)
国連によってSDGsの1つに「ジェンダー平等の実現」が掲げられた

- 1983(昭和58) 「墨田区婦人問題を考える会」発足
- 1986(昭和61) 「墨田区婦人問題を考える会」から「墨田区婦人問題対策協議会」に改称
- 1987(昭和62) 「すずかけ」創刊(企画・運営 墨田区婦人問題対策協議会)
- 1990(平成2) 「すみだ女性センター」開館
- 1991(平成3) 「すずかけ」9号発行(企画・編集 すずかけ編集委員会)
すずかけひろば・すずかけまつりの開催開始
- 1997(平成9) 「すずかけ女性大学」開講
- 2001(平成13) 「すずかけ女性大学」から「すずかけ大学」に変更
- 2004(平成16) DV相談開設
- 2011(平成23) 東日本大震災被災地からの要請により、すみだ女性センターを通して洗濯ネット等を提供
- 2020(令和2) 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発出による休館、事業の中止
- 2021(令和3) すみだ女性センターPR動画「すみだ女性センター開館30周年記念すずかけまつり」をYouTubeで配信  [YouTube](#)
- 2024(令和6) 「すみだ女性センター」から「すみだ共生社会推進センター」に名称変更

1986(昭和61)
男女雇用機会均等法施行

1999(平成11)
男女共同参画社会基本法施行
⇒男女共同参画センター等への名称変更が相次ぐ

2001(平成13)
日本でパープルリボンプロジェクト(女性に対する暴力をなくす運動)が始まる

2011(平成23)
東日本大震災

2016(平成28)
女性活躍推進法施行

2022(令和4)
「東京都パートナーシップ宣誓制度」運用開始

今まで、そしてこれからと題して、座談会を行いました。



出席者(敬称略・右から)

木部伸子(元すみだ女性センター館長)

西澤直子(現すみだ女性センター運営委員会委員長)

岩田道子(前すみだ女性センター運営委員会委員長)

司会

すずかけ編集委員

司会…まず、自己紹介を兼ねて、すみだ女性センターに携わったきっかけをお伺いします。

木部…私は区の職員として、1999(平成11)年から6年間、こちらに勤務しました。

最初は中野ツヤ館長のもと次長という立場でしたが、2年後に中野館長が退任され館長

になり、4年間館長として仕事をしていました。区民の方たちとともに仕事するのは

初めての経験でしたので、そのエネルギーや行動力に驚くとともに、感動することが度々ありました。

岩田…私はすずかけ大学を受講したのがきっかけで、すみだ女性センターに関わるようになったと記憶しています。

その後、すみだ女性センター運営委員会委員として活動しました。2007(平成19)年

から運営委員長に就任し、西澤さんと交代するまで5期10年間務めました。その時にすみだ女性センターさぼりた

ずという登録団体を立ち上げて、そちらに加わって今も活動しています。

西澤…子どもが小さい頃には利用者として訪れていました。その後、2011(平成

23)年に『福澤諭吉と女性』という本を出したことがきっかけで、2013(平成25)年に

すずかけ大学で本のタイトルをテーマに話をする機会をいただきました。その時に、生

まれた時からずっと墨田区と同じところに住んでるんですよという話をしたところ、当

時の館長さんから、いろいろお手伝いしていただいけませんかと声をかけていただいたこ

とがきっかけでした。その後しばらくして、岩田さんから

運営委員長を引き継ぐということになりました。

司会…すみだ女性センターではどのようなビジョンや目標を持って活動していたのですか。

岩田…これからは女性が活躍する時代なんだけれども、明治時代の古い考えや慣習が引き継がれていて、活躍するた

めの素地は全然できていない。墨田区は男性上位の地域だと

すごく感じましたね。墨田区は自営業が多くて、女性も一

緒に働いているのに表に出るのは男性ばかり。そういう環境は一朝一夕では変わらない

もの。でも、できるだけ女性が活躍できるように環境というのを目指すべきだ、という基本姿勢で色々な活動に加

わってききました。司会…すみだ女性センターに関わる中で大きな変化や課

題がありましたら教えてください。

岩田…大きな変化ってそんなに感じないんですけどね。私が委員長の時にすみだ女性センターの名前を変更する話が

外から起こってしまいました。私は、すみだ女性センターの名前は変えられないというスタンスで頑張りました。

木部…名称変更については何度か議論されてきたようですね。岩田さんもおっしゃったように、運営委員会の中では

すみだ女性センターの名前を



岩田 道子さん

変更する必要はないという意見が多かったように記憶しています。運営委員会では名前に対しての関心が常に高かったということですよ。

岩田.. そうなんです。東日本大震災の時に、女性に特化した困った問題に対応する際に「女性センター」という名称のおかげで、仙台の女性センターとすみだ女性センターがつかないで済んだんですね。ですからね、やっぱり名称っていろんな意味があつて大切ですよ。

司会.. すみだ女性センターに関わっていて、忘れられないエピソードや記憶に残っている事業があれば教えてください。
岩田.. 東日本大震災の翌年に日本女性会議2012が仙台で開催されました。運営委員とその時の館長と一緒にその会議に参加したんです。女性の力で地域を活性化しよう、というようなテーマでやった

ように覚えています。それとすみだ女性センターを通して洗濯ネットを送ったこと、それがやっぱり思い出ですね。

司会.. 洗濯ネットは、欲しいという要請があつたのですか？

岩田.. そう。仙台の女性センターから洗濯ネットを200枚ぐらい欲しいと要請がきたんです。私がグループを作って皆さんにメールして、あつという間に必要枚数が集まり、それを送り届けました。その後も、下着や巾着袋が欲しいと要請がきました。何でもかんでもやたら送るんじゃないかと、要請があつたものに対して送るのが一番有効だと思えました。やってよかったと思ひ出に残っています。

木部.. 女性だけが集まって議論をしたり学んだりしているだけでは解決にならないだろ

うと思ひ、男性も参加できる講座を積極的にやるようにしようという取り組みました。すずかけ大学は、以前はすずかけ女性大学という名称だったんですが「女性」がついていると男性は入りにくいだろうという

ことで「女性」は外して、男性にもぜひ来てもらおうということになりました。それから講座に来た方に、男性のグループ活動をやらせませんかというお声がけをして「オットマン(夫父男倶楽部)」というグループができました。その中には、運営委員を務めた方もいらつしやいます。より多くの男性に来館していただけるように、夜間の講座を設けたりとか、職員といろいろな工夫をしながらやったことが、私

司会.. 最後に、すみだ女性センターからすみだ共生社会推進センターへ変わるにあつ

て引き継いで欲しいことと、どのような役割を担って欲しいかについてお伺いします。

岩田.. 引き継いで欲しい点としては女性の目線が大事については女性の目線が大事かなと思います。多様性も大事なことなんだけれども、まだまだ女性っているんな問題がありますから、少しでも改善できたり、支援ができた、そういう拠点になるということ、その視点は大事にすべきだと思います。

西澤.. そうですね。墨田区の状態が大きく変わってきていることがこれからの課題であると思うんですね。他の女性センターもそうですね。私に参加しているような女性史に関する学会もそうなんですけど、非常に高齢化していて、若い方がほとんど入らない。入っても定着してくれないという問題があります。

世代間でどう交流していくかということ考えた時に、若い男性が女性センターの本来の意義を理解して、女性センターという名称でも通おう、となるまではなかなか難しい。だから、前向きに考えれば、若い男性も参加しているいろんな問題を一緒に考えていける環境が名称変更によって作っていただけるのではないかと思います。墨田区も大学誘致で若い学生さん多いようになったので、世代間でお互いに歩み寄れるための



木部 伸子さん



西澤 直子さん

話し合いができるプログラムを作っていると、短期間しか墨田区に住まない方たちにも、関心を持って講座に参加していただけるのではないかと考えています。なので、女性問題から目をそらすということはしてはいけないと思うのですが、少し入口を広げたことで、若い方たちにも参加していただいて、上の世代との交流を持ってもらえるような工夫をすることができないかなと考えています。
司会：今回の名称変更は、門戸を広げたということですね。

この座談会は2023(令和5)年9月26日に行いました。

短い時間の座談会でしたが、和やかな雰囲気の中で有意義なお話を伺いました。

西澤：そういうふうにとらえて「すみだ女性センター」という名称だと女性問題しかやっていないと考え、最初から関心を持ってもらえなかった方に「すみだ共生社会推進センター」に変わって、何をやっているところなんだろうと思ってもらえる工夫ができると思います。新しい愛称も親しみを持ってもらえるといのかなと思ってるんです。
司会：貴重なお話をありがとうございました。
一同：ありがとうございます。

2023(令和5)年9月23日(土)

すみだ女性センターの事業の一つ
すずかけひろばが開催されました

舞台発表

- 新日本婦人の会 墨田支部「カ・ラニレファ」[フラダンス]
- 朗読サークルQ [朗読]
- 花藤会 [日本舞踊]
- シニアフラ 「モキハナ」[フラダンス]

展示発表

- あしたの会 [活動報告、支援のための物資斡旋]
- 家庭倫理の会墨田区 [子育てセミナー、短歌、習字]
- コスモスクッキングサロン [活動報告]
- 新日本婦人の会墨田支部 [絵手紙]
- 自彊術(じきょうじゅつ)同好会 [自彊術の解説]
- 墨田区更生保護女性会 [活動報告]
- すみだ女性センターさぼーたーず
[「脳が若返るぬり絵」体験コーナー]
- すみだにほんごボランティア21 [活動報告]

講演会

「すみだとモンゴルの虹の架け橋」
～すみだ育ちの写真家から学ぶ～
講師 杉山 晃造(すぎやまてるぞう)氏

墨田区在住の杉山氏は愛知県生まれの両国育ち。1983(昭和58)年よりモンゴルの文化・風土を追い続けています。旅行者には未開放である地方の文化財や遺跡、モンゴルの遊牧民の生活などを写真とともにお話いただきました。



※すずかけひろばは、すみだ女性センター登録団体と協力委員のすずかけひろば委員会などからなる実行委員会が企画・運営しています。

なりたい自分、
なりたい未来

すみだの 「お仕事探訪」

Vol.07



株式会社ソラスト
せらび向島 センター長
介護福祉士
わたべ ひろお
渡部 寛大 さん
Watabe Hiroo

Profile

建設業界で18年間働いたのち、2014(平成26)年から「せらび向島」へ。介護福祉士として現場経験を積み、現在センター長として働きやすい職場づくりに取り組む。

人と、命と向き合い、敬うことが大切。

Q. 業務内容や仕事の魅力を教えてください。

認知症の方々が共同生活をするグループホームで働いています。日勤、遅番、夜勤の三交代勤務で24時間365日、ご利用者の介助や見守り、サポートをします。グループホームでは、これまでの日常生活を急激に変化させないように、できることはご利用者様ご自身でしていただいています。例えば食事の手伝い係や洗濯物をたたむ係など、それぞれに応じた役割をお願いしながらみんなで生活します。一人ひとりできることが違ったり、必要なサポートが違うので、適したプランをスタッフで共有しながらチームで業務にあたります。誰が担当してもご利用者様に安心していただけるよう、チームプレーで助け合って補いながら仕事をしています。ですので力持ちの人、細かいところに目を配れる人…性別や年齢関係なくそれぞれ得意分野を生かして活躍しています。

介護職は命に関わる仕事なので、命を第一に考えなければいけません。命に、人に向き合い柔

軟に取り組める人が向いていると思います。

仕事をする上では、ご利用者様それぞれにしっかり向き合うことが大切です。そうすると、その方の生きてきた歴史が見えてきます。短期記憶を忘れてしまっても、昔のことや好きなことは忘れないですよ。この前、ご利用者様にプロレスが好きだという話を聞き、プロレスをみんなで見に行きました。激しい場外乱闘をものともせず楽しませていました。コミュニケーションをとって信頼関係を築いて笑顔を引き出せると、やっぱり嬉しいですね。



Q. 地域との関わりはありますか？

地域活動やおでかけを通して関わっています。例えば、ご利用者様とご家族、地域の方や子どもたちとオープンカフェを楽しんだり、東向島駅で開催されるチャリティーバザーに出店したり、地域清掃活動をすることも。季節を感じたり、外で人ともものにふれあう体験は、ご利用者様も自然と笑顔になる楽しいひとときです。



ソラストグループでは同性パートナー制度を導入し、性的マイノリティ(LGBT)の支援を推進するなど、多様性や個性を認め合いながら働ける職場づくりに努めています。

お仕事コンシェルジュ

無資格・未経験でも働きはじめることは可能ですが、初任者研修や専門的な知識と技術習得のための実務者研修を受講後、介護福祉士の資格を取ることにより専門的な仕事を担うことができます。



今日の一字



老若男女、誰もが自分らしく、ハッピーでありたいですね。

男女共同参画社会を目指し、みんながハッピーであるために、

あなたが日々の暮らしの中で感じた思いを「今日の一字」に例えて教えてください。



のんさん

日々感謝の気持ちを持って進む。



なおこさん

長い歴史の中で私たちは生きているんだなあと感じます。皆が笑顔で暮らせる社会を、次につなげていきたいです。



くまさん

一人ひとりが自分の幸せを追求できる社会ができれば良いと思った。



みなさん

健康な毎日を送られますように！

せらび向島に行ってきました！

東向島のまちかど、おだやかな空気ただようグループホーム「せらび向島」で働かれている3名の方々に今日の一字を伺いました。

信用・信頼・信じる気持ち…。ご利用者様やスタッフみんなに信じて私に任せてもらえるようになります。



神山亜衣さん

やっぱり笑顔が一番！ご利用者様や、いろいろな関わりのある方全員に笑っていただく！それを大事にしています。



田中賢吾さん

ご利用者様に私たちが育ててもらった場面もたくさんあると感じます。管理者としてもよいサービスを提供できるよう、人を育てていきたいです。



天野雅章さん

「今日の一字」を募集しています

【応募写真のテーマ】

手書きで紙に書いた、「今日の一字」の写真
(1年以内に撮影したもの)
※墨田区在住、在勤、在学の方。
※野線の無い、無地の紙にお書きください。
※スマホ等で撮影した写真も可。

【応募方法】

作品の応募は電子投稿(Eメール)のみとします。以下の内容を記載し、Eメールで応募してください。

- 1) 応募者(撮影者)の名前(フルネーム、本名)
- 2) ペンネーム(掲載する際に使用)
※記載の無い場合は本名を掲載します。
- 3) 一字にのせた思いやエピソード、コメント等(50文字以内)
- 4) 連絡先(住所、電話番号)

【応募について】

- メールの件名を、必ず「すずかけ漢字投稿」としてください。
- 写真データは2メガバイト以内のJPEG形式でお願いいたします。
- お一人様何枚でも応募可能です。
- 応募1回につき添付する画像は1枚とします。
- 郵送による投稿の受付は行っていません。
- 随時募集しています！

【応募先メールアドレス】

suzukake@city.sumida.lg.jp

【注意事項】

個人情報の取り扱いなど、詳細は右記二次元コードより区ホームページ「今日の一字」募集ページをご覧ください。

その他詳細は以下のページをご覧ください



募集

墨田区男女共同参画推進委員
を募集します

性の多様性を尊重し、性別等による格差解消などに取り組む「墨田区男女共同参画推進委員会」の委員を募集します。この委員会は、区民の皆さん等で構成し、区の施策に対し意見や提案を述べ、施策等の普及啓発を行う機関です。

誰もが働きやすく住みやすい墨田区にしたい方、次世代に性別等による格差のない墨田区を残したい方など、ぜひご応募ください。

応募内容

募集人員	2名
応募資格	区内在住の成人の方
任 期	2024(令和6)年4月1日から 2026(令和8)年3月31日まで(2年間)
主な活動内容	審議会への参加(平日昼間に年4回程度・ 各回2時間程度) ● 区の男女共同参画施策に関する検討 ● 男女共同参画や女性活躍推進に関する 啓発活動
託 児	一時保育サービスあり(無料)
謝 礼	審議会の出席1回につき、7,500円(税込) ※ 委員は、特別職の非常勤職員に 位置づけられます
選考方法	応募書類の審査

応募方法

提出 いただくもの	応募用紙 (住所、氏名・ふりがな、 生年月日、性別、職業、 電話番号、応募動機、 地域活動やボランティア活動実績、 男女共同参画や多様な性に関 する学習経験・仕事の実績等を 記入すること) ※ 書式自由 (区公式ホームページからも 申し込めます。)
提出締切日	2024(令和6)年2月5日(月)ま でに(必着) 持参・郵送・Eメール

応募先・
問合せ先

〒130-8640
墨田区吾妻橋1-23-20(区役所14階)
墨田区 総務部 人権同和・男女共同参画課
男女共同参画担当



03-5608-6512



JINKEN@city.sumida.lg.jp



区公式
ホームページ

部会活動について

テーマごとに分かれて部会活動も行います。

プラン評価部会

区の男女共同参画推進プラン進捗状況
報告について、推進委員会としての第三
者評価案を検討します。

意見交換会部会

男女共同参画社会の実現について、区民の
意見を反映させるため、意見交換会(講演
とワークショップ)を企画し、実施します。

※ 男女共同参画推進プランとは…すみだの男女共同参画社会の実現のために2023(令和5)年に改正施行された「墨田区女性と男性及び多様な性の共同参画基本条例」にある基本理念をどのように推進していくかを具体的に定めた行動計画のことで、5年ごとに改定しています。令和6年度は、令和10年度までの推進プラン第6次がスタートします。なお推進プランの進捗状況については、毎年、公表をしています。

愛称決定

すみだ共生社会推進センターの愛称が決定しました！

愛称は **すみなか** です。

2023(令和5)年9月11日～9月24日の期間に26件の応募をいただき、ありがとうございました。

すみだ女性センター運営委員会において「すみなか」を選定し、区として正式に愛称として決定しました。「すみなか」は、「すみだ」の「すみ」と、「真ん中」「仲間」「仲良し」の「なか」を合わせた造語ですが、呼称として親しみやすく、区内循環バス「すままるくん」「すみりんちゃん」と共通の語感であることから、区民にも親しみやすい、という意味が込められています。

また、「すみだ共生社会推進センター」の所在地が押上であり、地理的に墨田区を中心に位置すること、さらに共生社会推進の「中核」「中心」となる施設、という意味も込められています。

今後は、ホームページや事業の紹介等に幅広く活用していく予定です。

墨田区男女共同参画推進拠点施設 すみだ女性センター ～すずかけ～

◆開館時間◆

[月曜日～土曜日]
午前9時～午後9時
[日曜日・祝日]
午前9時～午後5時

◆アクセス◆

〒131-0045
東京都墨田区押上二丁目12番7-111号
TEL:03-5608-1771
FAX:03-5608-1770

電車の場合

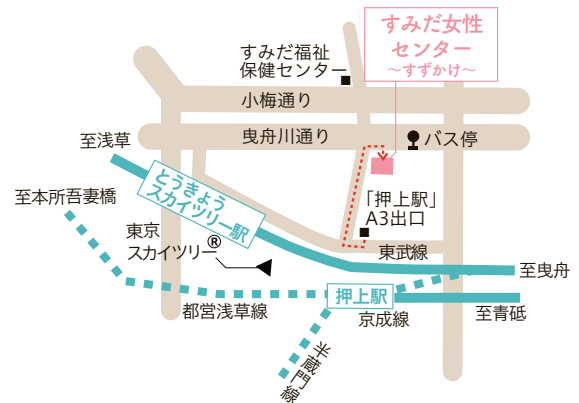


京成線・東武線・都営浅草線・
半蔵門線
「押上駅」下車A3出口徒歩5分
東武線
「とうきょうスカイツリー駅」下車
徒歩7分

バスの場合



都バス(錦40)
南千住駅東口～錦糸町駅前
「向島三丁目」バス停前徒歩1分



編集委員からひとこと

かつて、各地の女性センターの名称が、続々と男女共同参画センター、男女共同参画推進センターなどに変更されていった時期がありました。そんな流れの中、当時のすずかけ担当職員の方が「墨田区は女性センターの名前を残しますよ」と力強く仰ってください、それを耳にして、編集委員のメンバーたちも「良かった」と各々が安堵や喜びを口にしたのを覚えています。

今回は以前とは違い、名称変更の運びとなりました。これを受け、「多様性も大事なことだけど、(センターが)女性にまつわる問題の改善・支援の拠点になること、その視点は大事にすべきと思う」という座談会出席者の方の言葉が心に沁みました。これからも女性の人権が大切にされる場所であり続けてくれればと願います。(横山)

すずかけ編集委員会「特集」P4～P7、「こんにちは すみださん」P12担当
浅井、及川、川嶋、木ノ内、高林、横山(五十音順)

墨田区男女共同参画推進委員

小池 尋江さん

興味・探求心を

原動力に



区民公募により墨田区男女共同参画推進委員会の委員になり、今年2年目になる小池尋江さんにお話をうかがいました。

応募したきっかけは、結婚を機に墨田区に転入しましたが、10年以上住みながら地域活動を行ったことがなく、そろそろ墨田区のためになるような活動をしてみたいと思っていたからです。特に今期の委員は、新たな区の計画(男女共同参画推進プラン)の策定に関わることもあり、区の計画がどう作られていくか、区民の声がどう反映されていくのかを知りたいとも考えました。

区に必要ない取り組みは何か、しっかりと考えたいと思いました。地域における男女共同参画の実現という部分では、自分が暮らす町会での婦人部の経験が参考になりました。「私が住んでる町会はこんな感じですよ」と、区民としてリアルな話ができたと思います。

以前働いていた職場が女性の管理職登用に積極的だったこともあり、私の30代は、がむしゃらに、本当に「働く」以外のことはしてきませんでした。しかし、転職を機にジェンダーや男女平等参画の考えに出会ったモヤモヤは、私個人だけ

のものではなく、社会全体で共有する悩みごとや困りごと、つまりは社会課題なのだ」と気づきました。また、そうした学びや気づきを発信することが社会をより良くするための力になるのだと意識しました。

どのような機会であつても、人権尊重の視点を踏まえた意見を表明できる自分であるためには、常にアンテナを高くしておくことが大切だと思っています。自分の困りごとを個人の問題だと流さず、社会で解決すべき課題であると気づいて声を上げることは、制度や仕組みを変えることにつながっていくと考えます。そのためにも、まずは区が発信する情報などに目を通すことで、区が何をしようとしているかを意識的に見ていく必要があると思います。そ

して、区政に区民の声を届けるために自分の学びを深めていくことも大切です。女性センターは「すずかけ大学」を開講していますが、様々な講師の講義を無料で聴くことができ、私も参加しています。これからも学びを深めていきたいと思えます。

仙台市出身の小池さんは東日本大震災後、防災に対する意識が高まり、防災士の資格を取得しました。また、女子差別撤廃条約を定期的に読み直すそうです。インタビューの間にも「その資料も持ってきまして！」とおっしゃりながら資料を取り出す様子に、何事にも興味や探求心を持つ小池さんの学ぶ熱量の高さを感じました。

(浅井)

発行 2024(令和6)年1月 すみだ女性センター(墨田区総務部人権回和・男女共同参画課)

〒131-0045 東京都墨田区押上二丁目12番7-111号 Tel:03-5608-1771 Fax:03-5608-1770

編集協力:株式会社ジャパンプライヴァータナショナル総合研究所

※本誌は区ホームページでもご覧いただけます。

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

VEGETABLE OIL INK

すずかけ
バックナンバー

